

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	管理栄養学科				
科目名称	からだと疾病Ⅱ				授業形態	講義			
科目コード	307100	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員	○	アクティブラーニング	○
担当教員名	小川 恒夫							ICT活用	
授業概要	<p>本授業の目的は人体の機能（生理学）を学ぶことである。</p> <p>からだと疾病Ⅰで学んだ解剖学の知識をもとに、体の各臓器が正常状態でどのように働いているか、すなわち体の機能（生理学）について学習する。例えば解剖学では食道・胃・小腸、大腸のように位置しているかを学んだが、生理学ではこれらの臓器で食物の消化・吸収がどのように行われるかを学習する。</p> <p>病院での実務経験のある教員により講義する。教科書には病気について一般的な症状や治療法が書かれている。しかし、患者によって病気の受け止め方や治療への意欲も異なり、教科書通りの症状が見られないことも多々あるので、実際の臨床に即した内容を講義していきたいと考えていく。</p>								
関連する科目	<p>本授業の履修前に受講することが望ましい科目：からだと疾病Ⅰ</p> <p>本授業の履修後に受講することが望ましい科目：臨床医学Ⅰ・Ⅱ、からだと疾病実習Ⅰ・Ⅱ</p>								
授業の方法と進め方	<p>はじめに前回の内容を理解しているかどうかを確認するために、小テストを行う。次に前半の授業内容を簡単に説明する。その後DVDを見ながら、課題を行う。6～7名をランダムに指名し、前の白板に課題の解答を記載してもらい、課題の理解度を確認する。後半は授業を聞きながらプリントに重要事項を記載するという形式で授業を進める。最後に前回の小テストを返却し、質問を受け付ける。同じ内容を1年生の小テスト、1年生の期末テスト、2年生の実習と3回くり返し覚えてもらう予定である。DVDに出てくる内容は難しいものも含まれているので、まずはDVD用のプリントに記載した分だけをしっかりと覚えること。</p>								
授業計画【第1回】	1. 骨格筋肉系 骨および筋肉の働き								
授業計画【第2回】	2. 循環器系 心臓拍動の調節、血圧調節								
授業計画【第3回】	3. 呼吸器系 肺と組織でのガス交換 肺活量								
授業計画【第4回】	4. 消化器系 胃、腸での消化吸収のしくみ								
授業計画【第5回】	5. 消化器系 肝臓での栄養代謝、胆汁の生成、解毒								
授業計画【第6回】	6. 泌尿器系 尿の生成、尿管での再吸収と分泌								
授業計画【第7回】	7. 生殖器系 性周期と女性ホルモン								
授業計画【第8回】	8. 内分泌系 ホルモンの働き								
授業計画【第9回】	9. 脳神経系 神経細胞の興奮、電気現象、中枢神経の働き								
授業計画【第10回】	10. 脳神経系 末梢神経の働き								
授業計画【第11回】	11. 感覚器系 体性感覚、視覚								

授業計画 【第12回】	12. 感覚器系 聴覚、味覚
授業計画 【第13回】	13. 体温調節 放熱散熱機構
授業計画 【第14回】	14. ビタミン欠乏症、人体発生 減数分裂、外胚葉、中胚葉、内胚葉
授業計画 【第15回】	15. 免疫系 アレルギー、膠原病
授業の到達目標	①体の構造（解剖学）および代表的な疾患について理解する。【知識・理解の獲得】 ②特に重要である生理学の用語について理解する。【知識・理解の獲得】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学習 【予習】	次の授業内容について教科書の「構造」の部分を読んで来ること。（1時間程度）
授業時間外の学習 【復習】	その日に講義されたプリントの括弧内の語句を覚えてくること。（1時間程度）
課題に対する フィードバック	小テスト、最終試験は採点后、返却 解説をします。
評価方法・基準	小テスト（5点）、期末テスト（95点）
テキスト	はじめての解剖生理学 講義と実習 金澤寛明 著 南江堂
参考書	人体の構成と機能及び疾病の成り立ち 総論、各論Ⅰ、各論Ⅱ 南江堂